

JICAベトナム事務所 月報

第191号（2026年6月号）
2026年7月14日発行

本月報に関するご意見・ご要望は
vt_oso_rep@jica.go.jp までお送り下さい

Website（日・越・英）：
<https://www.jica.go.jp/overseas/vietnam/index.html>

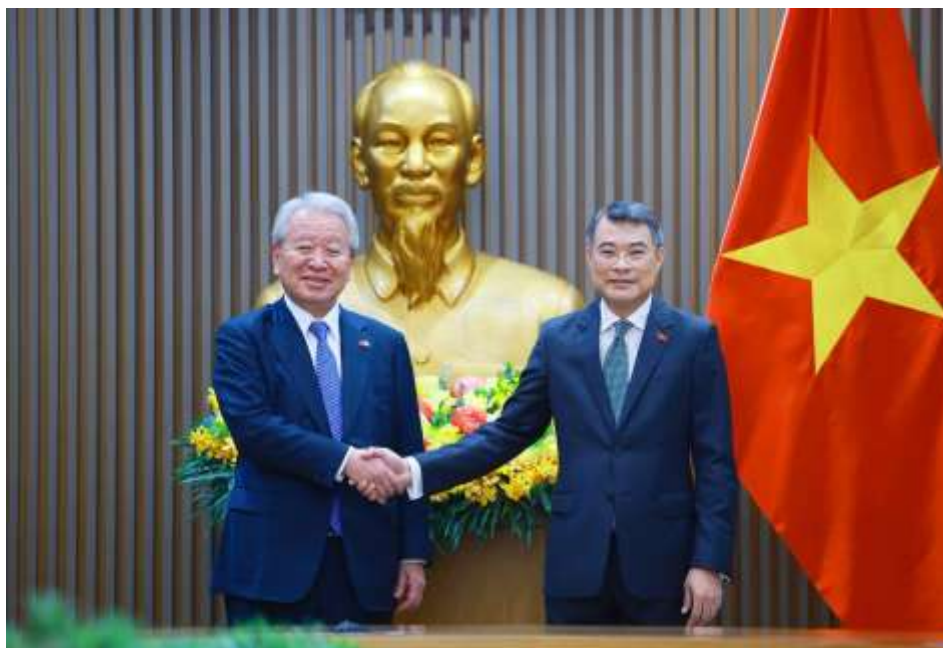
Facebook（越）：
<https://www.facebook.com/jicavietnam/>

発行：JICA ベトナム事務所広報班

目次

- JICA 田中理事長のベトナム訪問 3
- 大気環境モニタリング TOT 研修実施 7
- 掘削泥土を活用した資源循環の実現へ 技術セミナー開催 8
- 日本の遠隔医療の現場から学ぶ
― ベトナム保健省・ラオカイ省向け第 2 回本邦研修を実施 9
- ベトナム 7 省で 5 歳未満児を対象とした B 型肝炎調査を実施 10
- 「国際経験に基づく税務行政改善プロジェクト」
最終合同調整委員会 (JCC) を開催 11
- メコンデルタの持続可能な農業発展に向けた
JICA とカントー大学の取り組み 12
- ベトナムを支える JICA の防災協力、世界へ発信 13
- ライチャウで活躍する日本人ボランティアの紹介 14
- JICA ベトナム事務所小林所長、「Vietnam News and Law」
創刊 35 周年記念式典に出席 15
- VTV4 番組に JICA ベトナム事務所堀田所員が出演、
都市廃棄物管理の課題と解決策を発信 16

JICA 田中理事長のベトナム訪問



田中理事長（左）とフン首相（右）

田中明彦 JICA 理事長は、2026 年 6 月 8 日から 12 日まで、ベトナム社会主義共和国を訪問しました。

6 月 9 日にはハノイにおいてゴック共産党中央組織委員会委員長、トゥアン財政大臣と会談したほか、JICA 海外協力隊の活動現場を視察しました。6 月 10 日にはハノイにおいてフアン HCMA 学院長、ヒエウ VNU 副総長と会談したほか、ホアラック地区のベトナム国家宇宙センター、日越大学キャンパス、ハノイ自然科学大学のラボ等を視察しました。

6 月 11 日には、ハノイにおいてフン首相と会談しました。また、ホーチミン市において、都市鉄道 1 号線に乗車したほか、チョーライ病院を訪問しました。

フン首相との会談

フン首相からは日本の長年にわたる協力に対する謝意が述べられるとともに、ベトナムの発展に向けた重要なパートナーとして、今後さらに幅広い分野で連携を強化していきたいとの意向が示されました。

これに対し、田中理事長は首相就任に対する祝意を表するとともに、ベトナムの 2045 年までの高所得国入りを見据えた新たな経済成長モデルの実現に向けた改革に対し、①科学技術・イノベーション・DX 人材の育成、②国内企業の競争力強化とグローバル・バリュー・チェーンへの参画拡大、③投資環境の改善、④戦略的インフラの強化といった四本の柱を中心に、包括的・戦略的に協力していきたい考えを示しました。

両者は事業実施に伴う課題対応についても認識を共有するとともに、ワーキング・グループを設置し、ベトナムの優先課題に沿った協力を迅速に実施するための議論を加速させ、協力関係を一層発展させていくことで一致しました。

ゴック共産党中央組織委員会委員長との会談

ゴック委員長との会談では、これまでの JICA による幹部人材育成の成果を確認するとともに、DX・AI、スマートシティ、法制度整備、グリーン経済など今後の重点分野を踏まえた協力の内容について議論が行われました。あわせて、研修内容をベトナムの優先課題に即したものとするため、不断の見直しと充実を図っていく必要性が田中理事長から提起され、先方の同意が得られました。

双方は、ベトナム経済の持続的成長を支えるためには指導部レベルおよび実務レベル双方でのリーダー育成が不可欠であるとの認識を共有し、研修の更なる充実やフォローアップの強化など、今後の具体化に向けた協議を加速していくことで一致しました。

トゥアン財政大臣との会談

トゥアン財政大臣との会談では、これまでの円借款案件をはじめとする JICA 事業の進展や協力に対する謝意が共有されるとともに、今後の ODA の方向性について意見交換が行われました。田中理事長からは、ベトナムの 2045 年までの高所得国入りを見据えた新たな経済成長モデルの実現に向け、円借款を含む多様な協力を引き続き推進していく考えが示されました。

また、①科学技術・イノベーション・DX 人材の育成、②国内企業の競争力強化とグローバル・バリュー・チェーンへの参画拡大、③投資環境の改善、④戦略的インフラの強化といった重点分野への支援や、官民連携の重要性、事業実施に伴う課題対応について認識が共有され、今後も緊密に連携していくことで一致しました。

海外協力隊の活動現場視察

ハノイ師範大学付属ブップ・セン・サイン幼稚園を訪問し、JICA 海外協力隊の鈴木隊員の活動現場を視察しました。

鈴木隊員は遊びから学ぶ日本式幼児教育の紹介や、同僚とともにベトナム幼児教育プログラムの充実を図っており、視察では乳児クラスにおいて 1～2 才の園児に向けたパネルシアター（イラストを使ったお話会）を行う様子を見学。田中理事長はベトナムの幼児教育制度や体制について園長に質問、活動の視察では元気な子供たちとの交流を楽しむ様子も見られました。

フアン ホーチミン国家政治行政学院長との会談

同会談では、幹部人材の能力向上や政策形成能力の強化に加え、地方分権の進展やデジタル社会への移行に対応した新たなガバナンス人材の育成に向けた協力について議論が行われました。これまでの研修事業を通じて築かれてきた人的ネットワークの重要性が改めて確認されるとともに、教職員の能力強化や教育手法の高度化、官民連携を含む今後の協力の方向性について意見交換が行われました。

双方は、ベトナムの持続的発展を支える人材育成において、特に中央・地方幹部の能力強化や政策実装力の向上を重視しつつ、引き続き協力していくことの重要性を再確認しました。



鈴木隊員による園児へのパネルシアター後の交流の様子



宇宙センターの設備を視察する様子

ベトナム国家宇宙センター訪問

ハノイ市ホアラック地区のベトナム国家宇宙センターを視察しました。宇宙センターはベトナム科学技術アカデミー傘下の宇宙技術の研究開発や人材育成を担う機関です。円借款により宇宙センターの主要な設備が整備されました。今後打上げられる地球観測衛星の運用等に活用され、災害・気候変動対策に貢献することが期待されています。視察では宇宙センターのラム所長の案内の下、日本企業によって整備された衛星管制・データ処理設備や研究棟、展示施設などを見学しました。ベトナムの宇宙開発の歴史や現状、また今後の日越宇宙協力の進展の重要性を改めて確認する機会となりました。

ヒエウ VNU 副総長との会談

ハノイ国家大学(VNU)のヒエウ副総長と会談し、VNU 傘下の日越大学等について意見交換を行いました。日越大学は日本とベトナムの協力を象徴する重要なプロジェクトであり、前学長の古田元夫先生が日越関係の深化に大きく貢献されてきたこと、JICA として、引き続き同大学の発展に積極的に協力していきたいこと、日越大学が昨年 9 月に半導体チップ技術プログラムを開設しており、今後、世界に対して有用な人材の輩出のできる大学となっていくことが期待されること等について、田中理事長から意見が述べられました。また、ベトナム政府が推し進めようとしている科学技術やイノベーションの発展のためには、日越大学を含む大学の役割が一層重要になっていくことも述べられました。

ヒエウ副総長からは、ホアラック地域では 1000 ヘクタールを超える敷地に大学都市を整備していく予定であり、日本が強みを有する分野でのさらなる協力に対する期待が示され、双方は引き続き協力関係を強化していくことの重要性を再確認しました。

日越大学ホアラックキャンパスの訪問

田中理事長は、日越大学(VJU)ホアラックキャンパスを訪問し、キャンパス内の視察後に日越大学オアイン学長と意見交換を行い、開学からこれまで古田前学長と共に協力し尽力してこられたことへの感謝と、日越大学の更なる発展に向けて激励の言葉が送られました。

ハノイ自然科学大学の R&E ラボを訪問

ハノイ自然科学大学(VNU HUS)より、ホアラック地区で 2025 年 11 月に開所された R&E ラボを視察しました。同ラボの機材は、JICA の SATREPS プロジェクトを通じて支援されており、これら機材を利用して、ハノイ自然科学大学や日本の東京大学、早稲田大学、民間企業が協働で、ベトナムの水質・大気汚染問題の解決のために、現場で迅速に水質や大気の実測ができる技術の開発などが進められています。

田中理事長による同ラボの視察では、VNU HUS 元学長ノイ先生と早稲田大学馬渡教授の案内のもと、水・大気環境モニタリング機材の利用状況などを見学しました。



ホーチミンメトロにホーチミン市都市鉄道運営会社（HURC1）社長と共に乗車する田中理事長

田中理事長は、6月11日にはホーチミン市において、都市鉄道1号線に乗車したほか、チョーライ病院を訪問しました。

ホーチミン都市鉄道1号線乗車

乗車を通じて、都市交通インフラの整備が市民生活や経済活動に与える影響について確認しました。本事業は、交通渋滞の緩和および環境負荷の軽減に寄与する重要なプロジェクトであり、都市の持続可能な発展に資するものです。

現地では、運営維持管理会社であるHURC1のチェット社長等から1号線の運行・利用状況、今後の都市鉄道各路線網の計画などについて説明を受けました。

チョーライ病院訪問

ホーチミン市のチョーライ病院において、ヴィエット病院長との面談および院内の視察を行いました。同病院はベトナム南部の医療サービス提供の中核となる病院です。面談では、1960年代以降の継続的な日本の協力の成果や課題について説明を受けるとともに、チョーライ日越友好病院（チョーライ第二病院）整備に関する事業進捗について意見交換を行いました。

院内視察では、日本がコロナ禍に供与した機材が使用されている集中治療室（ICU）の様子や、日越友好記念の銅板などを見学し、これまでのパートナーシップについて再確認する機会となりました。

大気環境モニタリング TOT 研修実施

2026 年 5 月 27 日、「食と環境の安全・安心を実現するハイテク簡易オペレーション分析デバイスの開発と人材育成」プロジェクト (SATREPS) により整備された分析 R&E センター（以下、R&E ラボ）において、大気環境モニタリングシステムに関する TOT 研修(Training of Trainers)を実施しました。

本研修には、ハノイ自然科学大学(HUS)の教員をはじめ、北部環境モニタリングセンターの職員および他大学からの参加者が出席しました。プロジェクトの概要説明の後、実際の計測機器を用いながら、大気環境モニタリングに関する理論と実践を学びました。講師には、共同研究機関の1つである東亜 DKK 株式会社のバンコク駐在事務所より山崎所長および Sopanat 専門家を迎えました。

また、研修冒頭には在ベトナム日本国大使館の中島書記官も参加し、研修の様子および R&E ラボの設備を視察しました。本研修を通じて、深刻化する大気汚染への対策に不可欠な正確な環境データの取得に向けた技術力の向上および専門人材の育成が期待されます。

本プロジェクトに関する過去のニュースはこちら
[ニュース一覧](#) | [ODA 見える化サイト](#)



TOT 参加者との集合写真

掘削泥土を活用した資源循環の実現へ 技術セミナー開催



集合写真

写真: ハノイ土木大学(HUCE)

JICA と太洋基礎工業株式会社(愛知県名古屋市)は中小企業・SDGs ビジネス支援事業の枠組みにおいて 2025 年 5 月より「ベトナム国河川等掘削泥土再利用システムの普及・実証・ビジネス化事業」を実施しています。

本事業では、掘削泥土などの建設発生土に添加材を混練する再利用システムを活用し、これらを堤防材等として再利用可能な改良土へと転換する技術の実証実験を行っています。分かりやすく言うと、工事が出る泥や土に専用の材料を混ぜて、再び使える土に変えるという取り組みです。この技術は、廃棄物を減らしながら、工事に必要な材料を安定して確保できる、環境にやさしい方法として期待されています。

同事業の一環として、2026 年 6 月 3 日にハノイ土木大学(HUCE)と技術セミナーを HUCE のキャンパス 2(ニンビン省フーリー市)において開催しました。

本セミナーでは、掘削泥土のリサイクル分野における日本のパイプラインミキシング技術の紹介、プロジェクトの研究成果の報告、ならびに実用化に向けた議論を目的として開催されました。セミナーの最後には、参加者向けのプロジェクトの設備稼働現場の見学も行われました。

太洋基礎工業株式会社は、本事業の成果を活用し、今後もベトナムにおける掘削泥土の有効活用および持続可能なインフラ整備に貢献する事業展開を進めていく予定です。

日本の遠隔医療の現場から学ぶ

― ベトナム保健省・ラオカイ省向け第 2 回本邦研修を実施

2026 年 6 月 7 日～19 日、ベトナム保健省やラオカイ省の行政官、医師、IT 担当者ら 9 名を対象に遠隔医療に関する本邦研修を実施しました。本研修は技術協力プロジェクト「遠隔技術を活用した医療人材能力向上体制強化プロジェクト」の枠組みで実施されました。

参加者は専門家による講義に加え、長崎県および山口県での現場視察や患者宅訪問を通じて、日本の遠隔医療の政策・制度・実践について学びました。また、現場のニーズに応じた制度設計や地域に根差した取組について理解を深めるとともに、日本の経験をベトナムの状況にどのように活かせるかについて活発な意見交換を行いました。

研修最終日には、ベトナムにおける遠隔医療の推進に向けた具体的なアクションプランが発表され、参加者は今後のプロジェクトにおける遠隔医療パイロット事業の方向性を共有しました。

本研修を通じて得られた知見が、ベトナムにおける遠隔医療のさらなる発展と、質の高い医療へのアクセス向上につながることを期待されます。



長崎県対馬病院において遠隔診療の手順を視察

ベトナム 7 省で 5 歳未満児を対象とした B 型肝炎調査を実施



採血後にプレゼントを受け取った子ども

「ベトナムにおけるウイルス性肝炎予防・対策強化プロジェクト(JICA-VHEP)」において、ベトナム国内 7 省において、5 歳未満児を対象とした B 型肝炎ウイルス感染状況調査を実施しています。

本調査は、対象地域の最初の省であるバクニン省にて、6 月 8 日に開始されました。調査は、地域住民や子どもたちの協力に加え、バクニン省疾病対策センター(CDC)、ベトナム保健省、および国立衛生疫学研究所の協力のもと実施されています。

今後は、残る 6 省においても順次調査を実施する予定です。本調査で得られるデータは、ベトナム全土における肝炎対策の強化に向けた重要な情報源となることが期待されています。

詳しくは、以下のバクニン省 CDC の投稿をご覧ください。

<https://www.facebook.com/share/p/1Nw8J2Rbkt/>

「国際経験に基づく税務行政改善プロジェクト」 最終合同調整委員会(JCC)を開催

2026年6月18日、財務省税務総局において、「国際経験に基づく税務行政改善プロジェクト」の最終合同調整委員会(JCC)が開催されました。本会合をもって、2020年9月に開始された同プロジェクトは、約6年間にわたる活動を完了しました。

会議では、税務総局のレ・ロン副総局長が、プロジェクトチームの献身的な取組、特に日本の国税庁から派遣された野口大輔チーフアドバイザーをはじめとするJICA専門家チームの貢献を高く評価しました。同プロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の拡大や、財務省および全国の省・市における組織再編といった前例のない課題に直面しながらも、着実に実施されました。また、急速に進む制度改革への対応を支援し、ベトナムの税務行政改革にタイムリーな貢献を果たしてきました。

税務総局および財務省の代表者は、日本をはじめとする先進国の経験や知見が、ベトナムの税務行政の近代化を支援するため、幅広い分野において提供されたことを確認しました。最終JCC開催時点において、プロジェクトで設定された全ての成果および目標は達成されています。

ベトナムでは現在、デジタル化を含む税務行政の高度化に向けた改革が引き続き進められており、投資環境の改善や経済成長の促進に寄与しています。

JICAは今後も、税務行政を含むベトナムの財政・金融分野の発展に向けた取組を支援してまいります。



集合写真

メコンデルタの持続可能な農業発展に向けた JICA とカントー大学の取り組み



イベントの様子
写真:カントー大学

2026 年に開催された農業技術・環境に関する国際展示会「Viet Agros 2026」において、JICA とカントー大学が実施する技術協力プロジェクト第 2 フェーズ「気候変動下のメコンデルタ地域における持続可能な発展に向けた産官学連携強化プロジェクト」が、グリーン農業、循環型農業および気候変動への適応をテーマとした研究モデルを紹介しました。

これらのモデルの多くは、現在、実際の現場で段階的に導入が進められており、農産物の付加価値向上、バリューチェーンの連携強化、さらには国内市場および輸出市場向けの高品質な製品の開発に貢献しています。

詳細については、カントー大学の Facebook をご確認ください。

<https://www.facebook.com/share/p/1BGono78XJ/>

ベトナムを支える JICA の防災協力、世界へ発信

国際ニュースチャンネル「Euronews」にて JICA のベトナムにおける防災協力が取り上げられました！

本番組では、日本が長年培ってきた災害リスク軽減の知見を活かし、ベトナム各地で進められている防災・減災の取り組みが紹介されています。

ソラ省で建設されたベトナム初の砂防ダムや、ハノイ市のエンサ下水処理場における処理機能の高度化など、日本の技術と経験が現場でどのように活かされているのかが、臨場感をもって伝えられています。

気候変動の影響により災害リスクが高まる中、JICA がベトナムの皆様と共に「強靱な社会」を築いていく姿を、ぜひご覧ください。

視聴はこちら：

[Euronews の報道リンク](#)



How Japan is helping Vietnam build resilience against disasters

同番組内にて取材を受ける守安専門家
写真：Euronews

ライチャウで活躍する日本人ボランティアの紹介



CHERRY BLOSSOMS BLOOMING IN LAI CHAU

同番組内にて取材を受ける長尾隊員
写真:Lai Chau TV

ライチャウ省ラジオ・テレビ局の特集にて JICA 海外協力隊の長尾綾菜さんと三重野里菜さんの活動の様子が紹介されました。

長尾綾菜隊員(専門:理学療法)は、現在ライチャウ省総合病院リハビリテーション科に配属され、以下の活動に取り組んでいます。

- (1) 同僚に対する理学療法の評価・治療技術の指導
- (2) 患者への自主トレーニング指導の充実
- (3) 運動療法を受ける患者数の拡大

三重野里菜隊員(専門:幼児教育)は、スnpファイ幼稚園にて、以下の活動を行っています。

- (1) 子どもの興味や発達に応じた保育活動の実践
- (2) 子どもが主体的に参加できる教材・活動の充実
- (3) 保護者の幼稚園教育への理解促進および参加の促進

配属先における主たる業務に加え、両隊員はベトナム語の学習や文化理解にも努め、地域社会との交流を深めています。

2名の活動の裏にある心温まるストーリーをぜひご覧ください！

JICA ボランティア事業の目的:

- (1) 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
- (2) 異文化社会における相互理解の深化と共生
- (3) ボランティア経験の社会還元

本番組の様子は以下リンクからご覧いただけます。

[Lai Chau TV の報道リンク](#)

JICA ベトナム事務所小林所長、「Vietnam News and Law」創刊 35 周年記念式典に出席

2026 年 6 月 17 日、JICA ベトナム事務所の小林洋輔所長は、ベトナム通信社 (VNA) 傘下の対外向け新聞「Vietnam News and Law」の創刊 35 周年記念式典(1991 年 6 月 17 日～2026 年 6 月 17 日)に出席しました。

ベトナムの発展に寄り添うパートナーの一つとして、JICA はこれまで一貫して、開発協力の価値を広く発信するうえで広報・コミュニケーションを重要な要素と位置付けてきました。

JICA は、「Vietnam News and Law」がベトナムの社会経済発展への取り組みを発信し、国際協力の成功事例を紹介するとともに、将来の持続可能な発展に向けた取り組みを広く伝え、日本を含む国際パートナーとの相互理解の促進に貢献してきたことを高く評価しています。



Vietnam News & Law 紙の記者らとの集合写真
写真:ベトナム通信社(VNA)

VTV4 番組に JICA ベトナム事務所堀田所員が出演、都市廃棄物管理の課題と解決策を発信



同番組内で取材を受ける堀田所員
写真:VTV4

急速に進む都市化に伴い、家庭ごみの排出量は急増しています。この問題は単なる環境衛生上の課題にとどまらず、持続可能な発展や市民の生活の質の向上という観点からも大きな課題となっています。

VTV4 で放送された番組「Environment – An International Perspective (環境—国際的視点から)」では、都市ごみ管理における主要な課題やボトルネックについて議論されるとともに、ごみの管理・処理効率の向上や、国際的な経験を踏まえたグリーンシティの形成に向けた方策が紹介されました。

番組では、JICA ベトナム事務所の堀田さくら所員が出演し、日本の実践的な経験を紹介しました。日本は過去に都市ごみ処理に関する多くの課題に直面しながらも、現在では高度で効率的かつ持続可能な廃棄物管理システムを構築している国として知られています。

廃棄物処理分野において、JICA はこれまでハノイ、ダナン、フエなどの都市に対し、ごみ分別システムの導入、パイロット事業の実施、制度・法規制の整備支援を行ってきました。また、市民の意識向上や人材育成を推進し、持続可能な廃棄物管理システムの構築に貢献するとともに、循環型経済に関する政策策定の支援にも取り組んでいます。